

平成 30 年度 保育サポーター研修会

と き 平成 31 年 3 月 17 日（日）10：00～

ところ 山口県医師会 6 階会議室

〔報告：理事 長谷川 奈津江〕

県内女性医師が働き続けることができるよう、育児のサポートをしてくださる保育サポーターさんの研修会が行われた。下関市、宇部市、萩市、周南市など県内各地より 30 名の参加があった。

男女共同参画部会長で保育サポーターバンク運営委員長でもある黒川典枝 先生から、10 周年を迎えたバンクへの協力のお礼とバンクが多くの女性医師の助けになっているとの現状報告があった。

次に、サポート経験者としてお二人の方からお話があった。山口市のサポーターさんからは、預かる子どもさんをご自分の孫と思い優しく見守ってくださっている様子が伝わった。下松市のサポーターさんは、赤ちゃんを預かっている間は、お手洗いになるべく立たないようにしていると仰っていた。サポーターの皆様が真摯に責任感を持ってくださっている様子に感謝の念が湧いてくる。

講演は、三田尻病院院長の豊田秀二 先生による「救急に繋ぐまでにアナタができることを体験



しよう！」であった。豊田先生はご存知のように山口県災害医療コーディネーター、統括 DMAT 隊員、JMAT やまぐち隊員、防府市防災委員である。この講演には、多くの赤ちゃんマネキンをご持参くださった。赤ちゃんはマネキンでも可愛らしく、どなたも胸骨圧迫・人工呼吸・窒息解除の実技を本当に楽しそうに熱心に練習なさっていて盛り上がった。実技の合間には皆さんが赤ちゃんマネキンを横抱きにして寝かしつけるようにトントンするほほえましいシーンも。BLS インストラクターでもある三田尻病院の藤井看護師さんと豊田先生が各テーブルを回り、参加者全員の実技練習に助言して下さるので、皆さんだんだん自信が出てきて質問もどんどん出た。

豊田先生の「救急車が来るまでの数分間を頑張ればいいのです。全員を助けられるわけではないけれど、ちょっとでも救命率を上げるために、まずはやってみてください。」の繰り返しの呼びかけは、参加者全員の胸に残ったことと思う。

